

KEYWORD

[臨床心理士]

臨床心理学の知識や技術を用いて、心の問題の援助や解決にあたる専門家。その資格は、財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する。

心理教育相談室



相談者の心理状態を表す「箱庭」。これをもとに心の探索がはじまります。

最 近の小・中学校には「スクールカウンセラー」という役目の人がいるのをご存じですか？ 学校で起こる様々な問題のうち、心の問題をカウンセリングによって解決する職業ですが、いじめや不登校の問題とともに、そのニーズが高まっています。しかし、スクールカウンセラーになるためには、指定校修了者のみが受験できる臨床心理士の資格をとらなければなりません。香川大学はその指定校であり、研究生の指導にあたってなのが教育学研究科附属心理教育相談室です。

相談室には室長の藪添隆一教授をはじめ、7人の先生がいます。その顔ぶれは、臨床心理士の資格を持つ教授、医学博士、道徳専門の教授など様々。これには理由があります。カウンセリングで扱うのは心の問題で、方程式のように明確な答えがありません。だから、それぞれの専門知識・経験をもちよることで、適切な判断・指導ができるような体制が整えられているのです。7人の先生の手厚い指導が受けられるのだから、かなり恵まれた環境と言えます。

とはいえ、カウンセラーを育てる上でなにより大切なのは経験だと藪添教授は言います。「まずは研究生同士がカウンセリングすることからはじめます。そして後輩である大学生のカウンセリングなど、徐々にその範囲を広げて、より多くの経験を積んでもらいます」。こう聞くと、簡単そうにも思えますが、実際はそう甘くありません。「カウンセリングというのは、心の中を深く掘り下げていく作業です。しかし、その時に、カウンセラーの心も同じ問題に捕らわれやすいんです。そうすると、普段忘れていた、あるいは封印していた自分自身の問題が吹き出すことがあります。こうなるとカウンセラーも苦しくなってしまうんです」。極端な場合、カウンセラーの方が相談者になつてしまうというところ。だからこそ、適切なカウンセリングができるように7人の先生が詳細に内容をチェックしていきます。「ここに来る研究生は、はじめから心の問題に関心が高い、いわば素質のある人々です。時には苦しくなることもありませんが、それを乗り越えていきますよ」と藪添教授。自分自身の心を成長させながら、カウンセラーとして一人前になっていくのです。



藪添 隆一
教授

PROFILE
やぶぞえ りゅういち
心理教育相談室室長
臨床心理士



繪内 利啓
教授

PROFILE
えない としひろ
医学博士
臨床心理士
精神保健指定医



山田 俊介
准教授

PROFILE
やまだ しゅんすけ
臨床心理士



竹森 元彦
准教授

PROFILE
たけもり もとひこ
臨床心理士

心の世界を導く

心の専門家が
未来の臨床心理士を育てる

